

(様式第8号)

長野県みらい基金 事業指定助成プログラム  
助成対象事業実績報告書

2022年 2月 17日

公益財団法人

長野県みらい基金 理事長 様

申請者：所在地長野県北佐久郡軽井沢町長倉2703-11

団体名 NPO 法人キッズドリ

代表者 職・氏名 市川 和美

『長野県みらいベース』において当団体が掲載した「事業指定助成プログラム」について、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業名

多文化を背景に持つ子ども達のアドボカシー

2 助成対象事業の実施期間

2020年12月24日～2022年2月10日

3 助成対象事業の内容

佐久地域では、沢山の子ども達が里親委託をされています。

社会的養育が必要な子ども達を見てみると、片親、もしくは両親が、多文化を持つ子ども達の割合が、多く日本の社会の支援活動が行き届いていなかったり、教育関係機関などが、支援体制をうまく作れていないのかという事が、考えられた。そこで、佐久地域に住む、多文化を背景に持つ子ども達をつのいディスカッション形式で、「生活支援」や「学習支援」でどのようなものが必要なのかを、考えた。

4 事業の成果

2020年12月より、オンラインで、佐久地域、東信地域に住む多文化を背景に持つ子ども達及び、海外経験のない子ども達を希望で、ミーティングを行った。

テーマは子ども達の中から出され、いろいろな社会的な考えや、日本人の考え方や、生活支援等を行った。

佐久地域こども応援プラットフォームのメンバーも参加し、学校で直面している問題や、友達関係の問題、家にかえり地域との生活の問題などを話した。プラットフォームのメンバーには、

東信教育事務所や、佐久地域振興局の職員の方々や、市町村議員さんたちもいたので、いろいろな意見を率直に行くことができ、それを、これからの教育機関に反映させようと、「第3回佐久地域こどもまつり」で、講師のサヘル・ローズさんを招いて、「多文化を背景に持つ子ども達のアドボカシー」という事で、セッションをして、それをZoom ウェビナーで放映した。

サヘル・ローズはじめ、高校生、スタッフを含め、すべて会場に集まる人たちのPCRテストをし、コロナ感染拡大防止の観点から、非常に注意して行いました。

当日、日本人でアメリカに住んでいた子ども（佐久地域在中）からは、「帰国した後、自分が海外で過ごしていたことを知られないように、かくして生きていた。」、ネパール人の父のお子さんは、「いろいろ、学校でいじめられて大変な時もあったが、お父さんとお母さんの子どもでよかった。」ととても活発な意見が話された。

サヘル・ローズさんからも、「地域の多文化を持つ人たちへ、助成金の申請大丈夫？」と声をかけてあげるだけでも十分な支援だという話もあった。

当日、学校の校長先生や、日本で生まれているが、家が多言語である子どもや、帰国子女や外国籍のお子さんたちに日本語を教えている先生たちも参加した。

その後、講師、プラットフォーム関係者と高校生達が交流を行い懇親会を行った。

学校生活の活動の中で、いろいろな工夫がこれから期待される。アンケートを当日取ったので、御参照ください

私たちのNPO法人では、里親のサポートですが、里親にや施設に行く前に、どのようにサポートをすれば、社会的養育されないようになるのか、早めに介入してサポートしていけるのかと考える事を優先しています。

今回、佐久地域の社会的擁護される子ども達の中で、多文化を持つ子ども達が大変多かったことをふまえ、多文化を背景に持つ子ども達と毎月話をする事でいろいろな問題や問題解決への提案などができて来たと思います。

これからも、この様な問題に取り組みながら、社会的養護をされる子ども達が少なくなっていくことを願います。

今回、この様なご寄付を頂き、私たちが活動できた事に、お礼を申し上げます。

ありがとうございました。

## 5 助成対象事業の実施状況を示す書類（添付）

- (1) 助成対象事業収支計算書
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類
- (3) その他参考となる資料